株式会社ムジクロエンタテイメント 様

ムジクロチケット

要件定義書

○○チーム

|  |  |
| --- | --- |
| 作成日 | 202X/XX/XX |
| 作成者 | 星野玄一 |
| 承認日 | 202X/XX/XX |
| 承認者 | 古垣結衣 |

更新履歴

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 版数 | 更新日 | 修正内容 | 更新者 | 承認者 |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

目次

[１ システム概要 1](#_Toc105422004)

[１.１ システムの名称 1](#_Toc105422005)

[１.２ 背景と目的 1](#_Toc105422006)

[１.３ 期待する効果 1](#_Toc105422007)

[１.４ 用語の定義 1](#_Toc105422008)

[２ 業務要件 2](#_Toc105422009)

[２.１ 業務概要 2](#_Toc105422010)

[２.２ 基本情報 3](#_Toc105422011)

[２.２.１ システムの利用者 3](#_Toc105422012)

[２.２.２ システムの利用環境 3](#_Toc105422013)

[２.２.３ 公開言語 3](#_Toc105422014)

[２.２.４ 外部システムとのインターフェース 3](#_Toc105422015)

[２.３ スタッフ業務 4](#_Toc105422016)

[２.３.１ ログイン 4](#_Toc105422017)

[２.３.２ 会員情報の管理 4](#_Toc105422018)

[２.３.３ イベント情報の管理 4](#_Toc105422019)

[２.３.４ チケット情報の管理 4](#_Toc105422020)

[２.３.５ 予約情報の管理 4](#_Toc105422021)

[２.４ 会員業務 5](#_Toc105422022)

[３ システム要件 6](#_Toc105422023)

[３.１ 機能構成図 6](#_Toc105422024)

[３.２ 機能要件（画面） 7](#_Toc105422025)

[３.２.１ 基本仕様 7](#_Toc105422026)

[３.２.２ エラー表示 7](#_Toc105422027)

[３.２.３ データ登録、変更、削除画面 7](#_Toc105422028)

[３.３ 機能要件（スタッフ機能） 8](#_Toc105422029)

[３.３.１ スタッフログイン 8](#_Toc105422030)

[３.３.２ スタッフメニュー 8](#_Toc105422031)

[３.３.３ 会員管理 8](#_Toc105422032)

[３.３.４ イベントカテゴリ管理 8](#_Toc105422033)

[３.３.５ イベント管理 8](#_Toc105422034)

[３.３.６ チケット管理 8](#_Toc105422035)

[３.３.７ 予約管理 8](#_Toc105422036)

[３.４ 機能要件（会員機能） 9](#_Toc105422037)

[３.５ 機能要件（データ） 10](#_Toc105422038)

[３.５.１ テーブル一覧 10](#_Toc105422039)

[３.５.２ ERD 10](#_Toc105422040)

[３.６ 非機能要件 11](#_Toc105422041)

[３.６.１ 可用性 11](#_Toc105422042)

[３.６.２ 性能・拡張性 11](#_Toc105422043)

[３.６.３ 運用・保守性 11](#_Toc105422044)

[３.６.４ 移行性 11](#_Toc105422045)

[３.６.５ セキュリティ 11](#_Toc105422046)

[３.６.６ システム環境・エコロジー 11](#_Toc105422047)

[３.７ 開発要件 12](#_Toc105422048)

[３.７.１ 開発に関する技術 12](#_Toc105422049)

[３.７.２ 日付時刻 12](#_Toc105422050)

[３.８ 成果物 12](#_Toc105422051)

# システム概要

## システムの名称

本システムの名称は「ムジクロチケット（以下、本システムという。）」とする。

## 背景と目的

株式会社ムジクロエンタテイメントは、創業以来、「感動で人を笑顔にする」を理念として掲げ、チケット販売を通して顧客に「豊かな感動」をご提供し続けてきた。しかし現在、デジタライゼーションやコロナ禍によって、社会が大きく変化している。これを受けて、将来も「豊かな感動」を提供し続けるために、「オンラインチケット販売の未来を見据えた、UX（User Experience）を創造する」という経営方針の下、当社独自の「チケット予約・販売サイト」を開設する。

本開発では、その第一歩としてUXならびにUI（User Interface）の研究と、システム管理業務の内容を調査するための“プロトタイプ”のシステムを構築する。

## 期待する効果

1. 社内の各部門に本システムを提供し、UIに関する意見を募集することで、UXの創造に役立てる。
2. システム管理業務のフローを確認し、要員計画に役立てる。
3. オンラインチケット販売サイトの、運営ノウハウを収集する。

## 用語の定義

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **No** | **用　語** | **説　明** | **No** | **用　語** | **説　明** |
| 1 | ムジクロチケット | 本システムの名称 | 5 | 利用者 | ユーザー認証（ログイン）が成功し、本システムを利用している者 |
| 2 | スタッフ | システム管理者 （ムジクロエンタテイメントの社員） | 6 | チケット | コンサートや演劇など各種イベントの入場券 |
| 3 | 会員 | ユーザー登録をし、本システムでチケット予約ができる顧客 | 7 | UX（User Experience） | サービスを通して得られる体験 |
| 4 | アカウント | ユーザーがログインする権利。またはログインに使用するアカウント名とパスワード | 8 | UI（User Interface） | サービスの窓口、操作画面など |

# 業務要件

## 業務概要

本システムにユーザー登録し、アカウントを持つ会員が、コンサートや演劇など各種イベントのチケットを予約できる。また、イベント情報を登録するなどの管理業務は、ユーザーアカウントを持つスタッフが行える。

* 業務フロー



## 基本情報

### システムの利用者

1. 本システムの利用者は、会員、スタッフの2種類に分類される。
2. 利用者は、本システムに登録された、ユーザーアカウント（アカウント名、パスワード）を持っている必要がある。
3. 利用者は、本人のユーザーアカウントでログイン後、本システムを利用できる。

### システムの利用環境

1. 本システムを利用するための端末は、Webブラウザーを搭載したパソコンとする。

### 公開言語

1. 日本語のみとする。将来的には多言語化する。

### 外部システムとのインターフェース

1. 予約の決済（予約したチケットの購入）は本システムとは別のシステムで行う。  
   ただし、そのためのインターフェースは別途検討するため、今回の開発範囲から除外する。

## スタッフ業務

### ログイン

1. スタッフは、登録済みの本人のアカウントを使用し、ログインできる。
2. ログアウトすると、システムの操作を終了する。
3. スタッフ用のトップページは、ログイン画面とする。

### 会員情報の管理

1. スタッフは、全ての会員情報を変更、削除（退会）できる。
2. 会員情報の登録は、会員本人が行うものとする。

### イベント情報の管理

### チケット情報の管理

### 予約情報の管理

## 会員業務

# システム要件

## 機能構成図

会員サブシステム

スタッフサブシステム

## 機能要件（画面）

### 基本仕様

1. 画面内のボタンや項目の配置、エラーメッセージや警告文の表示位置は可能な限り統一する。
2. 必要に応じて前の画面に戻るための「戻る」ボタンを設ける。（ブラウザーの「戻る」ボタンを使用した場合の動作は保証しない。）
3. 一覧表示では、ページの切り替えをせずに1ページで全てを表示する。
4. 文字、文字列、年月日は左詰め、数値は右詰めとする。
5. 年月日は「YYYY/MM/DD」方式とする。（例：2021/04/01）
6. パスワードおよびパスワード確認の文字列は、全て別の記号に置き換えて表示する。
7. データの項目名、あるいはデータの文字数が極端に長く画面に収まりきらない場合は、行を折り返して表示するか、閲覧性を考慮して簡略表示する。ただし、簡略表示する場合は、正式な簡略名がある場合か、全ての利用者が誤解なく解釈できる場合に限る。

### エラー表示

1. 業務エラーが発生した場合は、エラーメッセージを表示する。
2. システムエラーが発生した場合は、ブラウザーのコンソール等でエラー状況を確認できるようする。（システムエラーのハンドリングは行わずともよい。）

### データ登録、変更、削除画面

1. 入力値が仕様と異なる場合は、エラーメッセージを表示して再入力を促す。
2. 登録済の値を変更する場合の入力値の仕様は、特に指定しない限り登録時と同じものとする。
3. 入力値を確定させる際は、その値をユーザーが確認できるようにする。
4. 画面遷移および入力エラーが発生した場合は、利便性を考慮して入力値を保持する。
5. 登録済の値を変更および削除する場合は、登録済の値を予め画面に表示する。

## 機能要件（スタッフ機能）

### スタッフログイン

1. アカウント名を用いて利用者を識別し、アカウント名とパスワードによってユーザーを認証する。
2. ログインに成功した場合は、スタッフ用のメニュー画面を表示する。
3. ログインに失敗した場合はエラーメッセージを表示し、再入力を促す。
4. ログイン後に、ログイン中のユーザー情報（スタッフ名）を確認できるようにする。

### スタッフメニュー

1. スタッフ機能を表示し、選択したスタッフ機能に遷移する。
2. ログアウトすると、スタッフ用のログイン画面を表示する。

### 会員管理

1. 会員情報の変更、削除機能を持つ。
2. 会員情報の一覧表示、または詳細表示ができる。
3. 初期画面はアカウント名と会員名からなる会員一覧を、アカウント名の昇順に表示する。
4. 変更あるいは削除時は、一覧表示から該当する会員を選択すると、選択された会員を詳細表示する。
5. 一覧表示から、会員名をキーワードにして会員を検索できる。

### イベントカテゴリ管理

### イベント管理

### チケット管理

### 予約管理

## 機能要件（会員機能）

## 機能要件（データ）

### テーブル一覧

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| No | テーブル名 | | 説明 |
| 日本語名 | データベース上の名前 |
|  | スタッフマスター | mst\_staff | スタッフ情報のマスター （スタッフのアカウント名、パスワードなど） |
|  | 会員マスター | mst\_customer | 会員情報のマスター （会員のアカウント名、パスワードなど） |
|  | イベントカテゴリマスター | mst\_event\_category | イベントカテゴリのマスター （イベントカテゴリ名など） |
|  | イベントマスター | mst\_event | イベント情報のマスター （イベント名、開催日など） |
|  | チケットマスター | mst\_ticket | チケット情報のマスター （席種、料金など） |
|  | 予約情報テーブル | tbl\_reservation | 予約済チケットの情報 （予約者の会員IDなど） |

### ERD

スタッフ

マスター

会員

マスター

イベントカテゴリ

マスター

イベント

マスター

予約情報テーブル

チケット

マスター

## 非機能要件

### 可用性

1. 目標復旧水準
   * データリカバリを伴う復旧では、１営業日で復旧できる。

### 性能・拡張性

1. 性能目標
   * レスポンス時間は、5秒以内とする。
2. 拡張性
   * 1年以内にユーザーが当初想定の3倍になっても性能目標を達成する。

### 運用・保守性

1. メンテナンス
   * サービス停止が必要なメンテナンスは、事前にユーザーに告知して行う。
2. サポート
   * 別途作成するサポート契約に従うものとする。

### 移行性

1. 移行方式の規定
   * 研究用のプロトタイプシステムのため、移行は発生しない。

### セキュリティ

1. 重要資産の取扱い
   * 個人情報を含む機密データを取り扱うため、データの暗号化転送・保存を行う。

### システム環境・エコロジー

1. 制限
   * 法律や条令の制限は特にない。

## 開発要件

### 開発に関する技術

1. 開発工程はウォーターフォールモデルで進める。
2. 開発言語はPython＋Flaskを使用する。

### 日付時刻

1. 実行環境のシステム日付、時刻を使用する。

## 成果物

別途作成する納入要領に従うものとする。

以上